



大阪市立大学  
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第21号

2005年(平成17年)12月1日発行

# 同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06(6607) 8 3 7 3

FAX 06(6605) 2 7 6 9

発行人 貴志 義昭



靱井宏明 作

## 《 目 次 》

表紙絵(大阪・中之島西部界限).....1	学科の近況・会員だより(応物・情報).....11
貴志会長・東名誉会長の挨拶.....2	〃 (バイオ・知的材料).....12
平成17年定年恩師の寄稿.....3	〃 (知的材料・環境都市).....13
学科の近況・会員だより(機械).....3	平成17年工学部卒業生名簿.....14
〃 (機械・電気).....4	平成17年工学研究科修了生名簿.....15
〃 (電気).....5	平成17年工学部入学生名簿.....16
〃 (応化).....7	平成17年工学研究科入学生名簿.....17
〃 (建築).....8	工学部同窓会事務局年報.....18
〃 (都市基盤).....9	平成18年評議員会・電話帳・後記.....19
〃 (応物).....10	平成18年“工学部同窓会の集い”の案内.....20

## ごあいさつ

会長 貴志 義昭



工学部同窓会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素から同窓会活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今年の2月に同窓会長をお引き受けいたしました。微力ではございますが、同窓会の発展と母校の発展のために頑張っ

て参りたいと思いますので、皆様のご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

今年も年末を迎え、皆様にとってどのような1年であったでしょうか。

私を感じますことは、これからの世界はアジアの時代と言われ多面重層的な国際交流の重要性が増していますが、アジア地域の中で日本はどのような立ち居振る舞いをして、アジアの一員としての誇りと尊敬を得ていくべきであろうかということでもあります。

昨年から引きずっていた日中・日韓のギクシャクとした関係が、少しほぐれてきたかなと思っていた矢先、10月中旬の小泉首相靖国参拝で、元に戻ってしまった感があります。

政冷経熱という言葉がありますが、アジア地域の中で現在の相互の密接した重層的関係が日常的に行われている中で、ご破産にしようとは誰も考えていないし、誰も望んでもいない状況の中で、もうそろそろフェーズジャンプした関係を築いていくべき時期と思います。

しかし、穏便を旨とする従来の日本の交流と、戦略的思考による行動と面子を重んじる民族との交流の中ではギクシャクを避けずにディベートとはそういうもののだとして、互いに主張して、知恵と技術を競っていく段階を迎えているのではないかと思います。

何か、場違いな話の展開に見えますが、国際交流が日常的な今日において、工学分野で関わる私達にとっても、無縁の話ではないと思います。

ところで、工学部同窓会HPでの就任挨拶で述べておりますように、特別基金の有効活用策の一環として、東工学研究科長のご提案による支援活動の準備を進めており、来年2月の評議員会でご承認を得たいと思っております。

それでは、今後とも同窓会活動の活性化に対する皆様のご意見・ご提案をお寄せいただくようお願い致します。

最後になりますが、来年が皆様にとってよき年であることを祈念いたします。

(建築・昭和41年卒：大阪府日中経済交流協会 常任理事)

## ご挨拶

名誉会長 東 恒雄



卒業生の皆様、お変わりございませんか。

この1年、大規模な地震、津波、ハリケーンが海外で立て続けに発生し、未曾有の被害を与えました。また、JR福知山線脱線事故も記憶に新しいところです。科学技術の進歩は身のまわりの生活を豊

かにしていますが、自然災害や不測の事態への対応は十分とはいえません。技術者の発言力の問題もありますが、技術者の倫理が問われているのもまた確かです。

昨年の会報でも触れましたが、各国の技術士のレベルを相互に認証しあう動きが国際的に強まっており、工学部の教育も「工学教育」から「技術者教育」に変わりつつあります。その一つとして、国際的に通用する技術者育成教育プログラムを第三者機関「日本技術者教育認定機構（JABEE）」が審査して認定する制度が数年前に発足しました。昨年度は機械工学科と土木工学科（現都市基盤工学科）がJABEE認定を申請し、今年5月に認定されました。今年度は電気、応化、建築、応物、知的材料、環境都市の6学科が認定を申請し、現在、実地審査を受けているところです。

工学研究科では今年7月、多様な研究分野の教員が有機的に連携して特色ある研究開発を戦略的に推進するために、専攻横断的な「研究機構」を新たに設立しました。研究機構の諸活動に大学院生を積極的に参加させて視野の広い人材の育成と後期博士課程教育の充実を図ること、また、企業の研究者・技術者ならびに官公庁の関連分野担当者の参画を求めて社会に貢献することも目的にしています。当面の研究機構として、マテリアル系、ロボット系、都市・環境系の3つを立ち上げています。詳しくは工学研究科のホームページをご覧ください。

大阪市立大学は来年4月に法人に移行します。大阪市が今秋に策定した「市政改革基本方針」から大学だけが除外されるはずも無く、今後5、6年の間に人員削減、経費削減が強いられることも覚悟しておかなければなりません。厳しい状況の中ですが教員一同、教育・研究の一層の充実・発展に努力いたしますので、卒業生の皆様には激励とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(大阪市立大学工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授)

### 表紙絵作者の略歴

1930年：兵庫県生まれ。  
1951年：大阪市立都島工業専門学校建築学科卒業。  
1989年：(株)中山製鋼所退社。  
1990年：ACTE建築企画事務所設立。

### 表紙絵の原画

「大阪・中之島西部界限」と云うタイトルの30号の油絵で、「2004年度なにわ美術展」への出展作品。

## 工学部のRejuvenation

南齋 征夫



大阪市立大学が公立大学法人に変わる日も目前になりました。必ずしも法人化に賛成でない構成員もおられるでしょうが、法人化を機に、大学は市場原理・自由競争を基本として運営することを明言することになります。圧力を受けたとき何らかの組織変態をしなければ自由エネ

ルギーの低い状態に維持できない自然現象と同じように、グローバル化の圧力が大学に変化を促していると考えられるでしょう。

私が大阪市立大学に入学した1960年の頃にも同じような状況がありました。当時、日本は高度成長期にさしかかったところであり、たとえば、私が2回生のときに受講した商学部伊藤先生の経営学の期末試験では、「貿易の自由化をひかえて、これからの日本の製造業はどのように対応すべきと考えるか」が問われました。私は、答案として、企業合併による大型化かもしくは特殊技術や特殊製品に特化した企業経営のいずれかの選択になることを、具体的な業種を挙げながら書いたように記憶しています。関税などによる保護政策に護られてきた様々な業種が、その後、国際競争の冷風に曝されることになりました。しかし、結果としては、貿易の自由化が日本の企業に国際競争力を付けさせることになり、GDPがきわめて高い値の現在の私達の生活につながっています。

さて、今回のグローバル化の圧力や影響は、企業だけでなく、日本のほとんどすべての組織体を受けています。45年前の貿易の自由化の頃に比べて、情報伝達と物資輸送の高速化・正確さの違いには桁外れなものがありますが、しかし、圧力に対応する策としては、依然として、合併による大型化かもしくは小規模なままでの特化するかはのいずれかであると私は思います。大阪市立大学工学部が他大学の工学部と合併して大型化する道を選ばないのであれば、小規模なままいかにして特化するかを熟考して決めてゆくことが重要でしょう。現在の10学科体制は、並のデザインの建物がきわめて細い10本の柱に支えられているように見えます。学部を一学科もしくは二学科程度にし、学部名や学科名を大胆に変えるくらいのこともプランとしてはありうるでしょう。

大学を離れてから思っていることを気ままに書きました。退職した者のたわごととご放念ください。

(大阪市立大学名誉教授・元工学研究科機械物理系専攻教授)

## 市大を退職して

松下 賢二



同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年3月に無事定年を迎えることができました。昭和43年の助手として奉職して以来長いような短いような37年間で、この間多くの同窓生の皆様にお世話になりました。いろいろなことが思い出されますが、学生さんが同世代だった

[右段上部へつづく]

若い頃のことはよく覚えています。当時はビリヤードが比較的盛んで学生さんと一緒にパチンコ屋の2階にあったビリヤード場にいったことを思い出します、夕方には長居までジョギングをしてそれから実験を始めるというようなこともありました。当時の大学院の学生さん達とは年齢もほとんど違わなかったので助手という立場も忘れて一緒に楽しんでいました。また、昼休みの時間にはよくバレーボールをし、一緒にゲームをした多くの同窓生の皆様と、日頃の卒業研究だけで得られない触れ合いがあったような気がします。その頃の卒業生のかたがたは、私と同様、もう定年を迎えられたか、あるいは定年間近の方も多いのではないかと想像いたします。大学紛争の頃にもいろいろな学生さんとの触れ合いがあったような気がします。若かったせいかな学生諸氏の思いや要求に共感するところも多々ありましたが、立場の違いも自覚させられることもありました。

私事ですが現在、薬品の試験装置である恒温恒湿装置のメーカーに週3回だけですが勤務しております。この仕事を決めるに当たっては電気工学科の同窓生のひとりの方のお世話になりました。思いがけないところで力を貸していただけたのも同窓生という縁があったからではと思います。

同窓会というネットワークを生かした交流がますます盛んになり有意義に生かされることを望んでいます。

(元工学研究科電子情報系専攻教授兼電気工学科教授)

## 痛みに耐える

玉垣 誠三



9月27日、工学部同窓会事務局から突然の電話。きっとわたしの退職後の生活ぶりについて何か書いて欲しいとのことなんでしょう。と請われても、頭のめぐりの悪いわたしには皆様方の気を引くような普遍的かつ確かなテーマは思いつかないから、考えときますとのあいまいな

返事で受話器を置いた。でも、何か書いておこう。だが、時間とお金がタツプリある年金生活者の自由で優雅なプライベートを披露しても、5年10年20年後に年金受給をひかえる人たちの参考にはならないだろうと危惧し、この話題は取り下げた。

そうこう頭を捻っていると、次の日の読売朝刊1面トップの見出し「大阪市改革マニフェスト案 職員採用5年凍結、87項目目標値経費削減2250億円」が目飛び込んできた。市は市民が本気で怒っていたのに今頃になってやっと気が付いたのか。しばらくの間、くるべきもんが来ただけ、自業自得かあ〜と感慨にひたつた。市大は平成18年度から公立大学法人化されるから別と、他人事であっては無神経だろう。わたしは退職しても無関心ではおれない。大阪市の改革の影響が様々な形で市大にも及ぶことは必至。市はおよそ2万人もの水膨れした過剰職員を抱え込んでいるだけだから、行政サービスを低下させずに人減らし可能と思うが、今以上に洗練された教育研究が求められる工学部(市大全体)には、現・教育研究組織体制では削減の余地はない。小さくて効率の悪いものは合併や吸収、逆に大きすぎて効率の悪いものは

[P4左下部へつづく]

## 機械工学科の近況

脇坂 知行



同窓会の皆様には益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。機械工学科の近況をご報告致します。

人事面では、本年3月末に定年退職された南齋征夫教授の後任として、本年10月に名古屋大学から川合忠雄先生が教授として着任されました（研究分野は機械

力学）。生産加工工学分野の川上洋司講師は、本年9月中旬から1年間の予定で、フィンランドのヘルシンキ工科大学に長期出張中です。

今年度の機械工学科の新入生は28名で、大学院工学研究科の機械物理系専攻前期博士課程（修士）の入学者は39名、後期博士課程の入学者は5名（その内、4名は社会人）ですが、後期博士課程の定員は9名であり、大学院での研究推進のため、社会人特別選抜制度をご用意頂き、より多くの方に後期博士課程に入学して頂きたいと願っています。卒業予定学生の進路ですが、現在のところ学部4回生32名のうち、大学院進学者が20名で、企業への就職内定者が7名、公務員が1名です。また、大学院前期博士課程2回生35名のうち、企業への就職希望者は33名で、全員内定済みです。今年度は、企業の求人が活発で、就職内定は順調に進みました。

機械工学科は、昨年10月にJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、本年5月に認定（認定開始年度：平成16年度）を受けました。大学は、法人化への対応、教育・研究のより一層の活性化、産官学連携・社会貢献の推進等が要求されており、同窓会の皆様には、今後とも一層のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

（工学研究科機械物理系専攻教授・機械工学科主任教授）

〔前ページ右段の下部よりつづく〕

分割することによってサービスの向上に努めなければならない。だから、中期的には学科間や理工間、長期的には市大と府大間の合併等の再編が必要だろう。二流と二流とが集まっても一流にはならないが、やならないよりまし。自ら考え、行動し、変わることが大切。そのために、現役は自ら痛みに耐える覚悟が必要だし、卒業生の理解と支持と協力の3つも不可欠だ。高偏差値の有名国立大学の物真似ばかりするのではなく、私立大学の教育体制や経営方針にも学ぶべきものが多くあろう。今のままの市大の懐具合と人的資本では、教育と研究を両立させて、有名国立大に比肩しうる活動を続けることは到底無理であると言う声にも耳を貸して欲しい。良薬口に苦し。

（大阪市立大学名誉教授・元工学研究科化学生物系専攻教授）

## 我らは昭和22年の卒業生

戸波 淳



私達は1947年3月に都島工学専門学校機械工学科（2期生）を卒業しました。在学中の約1年は戦争中でしたので、学徒動員で軍需工場に工員として工作機械による作業に従事していました。戦争が終り命を永らえたことで嬉しかったことを思い出します。

日本全国は敗戦の痛手に産業の復興は1950年の朝鮮戦争までは殆どありませんでした。勿論卒業しても機械関係の産業は新卒者の受け入れる企業は殆どなかったのですが、しかし同窓生たちは各種の産業に何とかして就職・開業して生きて来ました。今では多くはリタイヤして老後の日々を送っております。

在学中、戦時の学内行事は勤労働員で戦後も小学校校舎の間借り等のため学内の行事は記憶にありません。そのようなことで私達はクラスの同窓会を20年ばかり前から数年毎に大阪市内で開催してきました。何年か毎に遠方の友も顔を出してくれるのが楽しみです。



嬉しいことに同期の高橋聰君（写真2列目左端の背広姿）が昨16年4月に「保護司」勤続26年の功績により藍綬褒章を受章されました。同君は豊中市にて家電店を50年に渡り経営されており、大阪府知事表彰（府税納付にて平成8年）等も受けております。（機械・昭和22年卒）

## 世の中に役立ちたい

山中 朗



機械工学科を昭和52年に卒業後、前期博士課程で2年間学んだ後に製薬会社に入社して、早26年が過ぎました。

これまで、製造本部エンジニアリング部で主に医薬品の合成設備の設計・建設業務に携わってきましたが、この間に化学・計装・電気・建設・空調など、必要な技術・知識を習得する必要性があり、勉強の連続でした。また、これらのなかで、予定通りに建設ができるか、生産ができるか等多くの艱難辛苦もありました。これらを通して、大学時代の研究実験で培った探求心と最後までやり遂げる執念

〔次ページ左段の上部へつづく〕

## 機械工学科

は、大きな財産となっていることに気付き、今更ながら、先生方への感謝と学生時代の勉学・努力の大切さがわかった気がします。

5年前から、経営企画部、製造企画部を経て、現在製造技術部で仕事をしていますが、さらに広範囲の技術・知識が必要となり、まだまだ前を向いてやっっていこうと考えています。

しかし、単に自己満足だけで仕事をしているのではなく、医薬品を通して、患者さんや医療従事者の方々に役立つために努力しているのだと心に刻んでいます。やはり、世の中の役に立つことと自己実現を一致させたいですね。

(機械・昭和52年卒、54年前博修了・塩野義製薬(株))

### エンジニアの1日

道場 広貢



皆様お元気でしょうか。大学を卒業してはや17年が経ちました。現在、私は自動車部品メーカーで生産技術関係の仕事をしています。私の部署の役割は、新製品を高品質・低コストで生産するために、製品形状の見直しや、高速・高精度な加工技術の開発、新しいコンセプトに基づく

生産ラインの構築を製品設計や設備開発部署とプロジェクトを組んで推進し、新製品を立ち上げていくことです。

この様に書くと、工学部出身のエンジニアとして充実した日々を送っている様に見えますが、実はその様な仕事だけでは回っていかないのが現実です。私ほどの年齢になると、いろいろな特命業務（という雑務）が増えてきます。先日も「××社が当社の工場見学に来るから」ということで、見学ラインの選定からプレゼン資料の準備、当日の見学の付き添いまで対応する破目になってしまいました。同期生の中には、この様な仕事の変化に領ける人もいないのでしょうか。しかし、見方を変えれば、その様な仕事を通じて自分の仕事の幅を広げ、人とのコミュニケーション能力を高めることにも役立つのであり、何事も前向きに取り組めるよう心がけて行きたいものです。

(機械・昭和63年卒・(株)デンソー)



講演中の坂根氏



坂根氏の講演を聞く出席者の皆さん



講演後の坂根氏を囲んで

## 電気工学科

### 電気工学科の近況

南 繁行



卒業生の皆様、本学も来春から法人化されことになりました。今後、ますます大学教育の質が問われる時代となり、当学科も、今秋、日本技術者教育認定制度(JABEE)を受審し、卒業生の能力を保証して、社会に送り出そうとしています。大学の教育研究を社会の要請に応える方向に変えることは、社会とのつながりによって発展して行く

という意味で、チャンスでもあるわけです。ただ、大学の中  
[右段の中部へつづく]

立的立場が信頼されていた面も多々あるので、企業からのサポートとの関係はいつも悩むところではあります。ともかく、社会の風があたることは良いことです。

このような中で、最近の当学科の学生はとても積極的で、産学協同で来られる方々ともものびのびと会話はずませていますし、明るい社交性に富んだ学生が増えてきていると感じています。また、前期博士課程で1年間自主的に海外へ留学する学生や、共同研究をするため、進んで海外に出張する学生達が出現しているのも嬉しいことです。

当学科では、今年4月から光電子工学研究室教授に、向井孝彰先生を迎え、また10月に宮崎先生が助教授に昇進されま  
[次ページ左段の上部へつづく]

した。現在、電磁気学研（南、武智）、電子回路学研（曾田、高橋、重田）、材料計測学研（青笹、草開、田中）、光電子工学研（向井、宮崎）、電氣機器学研（辻本、村治）の12名です。

今年は幸いに就職状況も良かったです。ただ、電氣工学科卒業生の後期博士課程への進学者が少なく、これが悩みの種です。社会人の場合、学部卒でも資格審査によって後期博士課程に入学することが可能です。学科の活性化のためにも、皆様の学問の集大成という意味でも、ご入学をお考え頂ければ有り難いです。

電氣工学科も今後、時代の変化を自覚し、邁進してゆきますので、卒業生の皆様からの変わらぬご支援をお願い致します。

末筆ですが、各位の益々のご発展をお祈り申し上げます。  
（工学研究科電子情報系専攻教授兼電氣工学科主任教授）

## 近況報告

永田 紳一



皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので、昭和51年に卒業以来29年が過ぎました。4年前に初めて、三菱電機の田中君とアイテック阪神の山田君が発起人となり電氣科の同窓会を杉本町で行いました。校舎もきれいに整備され、その変貌ぶりに全員驚かされました。今年3月にも行い、今後も定期的に行う予定です。私は製紙会社で6年の工場勤務の後、現在は研究所で計測装置の開発を担当しております。紙の繊維配向やフィルムの分子配向を測定する分子配向計、自動複屈折計（KOBRA）を開発し、現在はそのオンライン測定化に取り組んでおります。前者は誘電率の異方性、後者は屈折率の異方性を測るもので、最近では液晶用光学フィルムの分野で利用されております。前者はマイクロ波を用いるため、当時、奥田研の森下先生のご紹介で、応物の村井先生にご教示を賜りました。この開発を契機に、誘電率を用いた複合材料の構造解析の研究で学位を頂き、翌年繊維学会論文賞も頂きました。将来は高分子材料の未知な部分を電磁波を用いて明らかにしていきたいと思っております。最後になりましたが、市大工学部ならびにOBの皆様方の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

（電氣・昭和51年卒・王子製紙㈱）



## 会社に入って四半世紀

西野 稔



こんにちは、私は大学を卒業してまもなく25年です。同窓会はしばらくしていませんが、同級生の皆さんはどんな人生を送っておられますか？

私の今の仕事は電力会社というイメージからはちょっと違って、関西地域への企業の誘致活動をしています。電力会社というのは地元経済活動と密接に繋がっており、関西がいかに活力ある活動をしているかがポイントです。そのために企業の関西進出のお手伝いをしています。この仕事は技術だけでなく、複合的な知見と広い人的ネットワークが必要で、ある意味世界が広がります。

さて、自分の会社での経歴を振り返ってみると… 初めは配電というお客さまに近い技術部門での技術者として電力会社固有の計画・開発面の仕事をしました。その後、通信事業会社に出向したり、国の機関でODAのエンジニアとして世界中の途上国を飛び回ったり、海外の地域開発の調査をしたり、色々な新しい仕事、自分の希望した仕事、枠を超えた仕事が出来てきたと思っています。そういえば、大学時代は音声認識をしていたので随分と違う世界でしたね。

まだまだですが、そろそろ次は何をしてやろうか！と公私共に楽しみを社内外で探しています。

（電氣・昭和56年卒、58年前博修了・関西電力㈱地域開発部副部長）

## 近況

山中 聡



電機メーカーで画像処理関連のASIC開発に携わってきました。どのようなシステムでも開発をすすめていくとICの集積化、いわゆるシステムオンチップを実現しようとします。開発するASICの規模は拡大する一方ですが、開発期間は一定のため、作業の合理化を行わないといけません。合理化の対象となるのが検証作業です。設計作業（回路図を描く、ハードウェア記述言語を書く）には一定時間が必要ですが、検証については論理的に要点を抑えれば作業を省くことが可能です。しかし、一歩間違えると大変なことになってしまいます。

先日、ものづくりに関する講演会が社内であり、講演者が設計の5カ条について述べていました。私はその中の「間違えるな」という条文にひどく感銘を受けました。嵐のように発生する会議や洪水のように湧き起こる設計作業では見失いがちですが、確かにスケジュールよりも、内蔵する機能の複雑さよりも間違えないことが重要なのです。

今年の4月にこどもが生まれました。女の子です。その成長の速さと変化の大きさに日々驚くばかりです。その様子を眺めながら、私自身も開発の合理化と「間違えないこと」の両立に精進していきたいと思う次第です。

（電氣・平成8年卒・10年前博修了・三菱電機㈱）

## 応用化学科の近況

松本 章一



を過ごしております。

まず、人事についてご報告致します。長い間有機微量分析で貢献してこられた森薫輝技術職員が平成17年3月31日に定年退職されました。また4月には、有機工業化学分野の南達哉先生が助教授に昇任されました。

ご存知のように、平成14年の工学研究科の再編以降、四専攻体制で大学院での教育・研究体制をより充実させ、後期博士課程の社会人入学制度（4月と10月入学）で社会人の方々にも機会を提供しております。十数年前に修士修了された卒業生で、最近社会人入学し、在籍中の方もおられます。化学生物系専攻の現教員に気軽にご相談頂きたいと思っております。学部教育でもずいぶん改革が進み、応用化学では今年度日本技術者教育認定機構（JABEE）認定を申請し、審査を受けています。JABEEでは、教員や学生だけでなく、最近の卒業生の皆さんにも面談などご協力をお願いしました。

来年春の独立法人化がいよいよ目前となり、大小の波がしばらく続きますが、応用化学科は、着実に一歩ずつ、教育と研究の両面を充実させながら、世の中に発信して参りますので、卒業生の皆様には今後ともご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（工学研究科化学生物系専攻長兼応用化学科主任教授）

## 研究者として生活してきた

岡 博之



卒業して10年程の月日が経ちました。卒業後はそのまま博士課程まで進み、その後は科学技術振興事業団の研究員として京都大学に所属、現在は徳島大学で助手をしています。何かと運良く研究一筋の道を歩んでいます。入学した頃は研究にはあまり興味がなく、とりあえず化学に関して勉強できればいいという感じでした。しかし修士課程途中から自分で研究計画を立てるようになり、それを実践し、論文を書くということに楽しさを感じるようになりました。博士課程では何報かの投稿論文を書きましたが、今でもたまにその別刷りを見て、当時のことを思い出しては楽しんでいるところがあります。研究をしていると行き詰まって苦しいときもありますが、しかし自分のしたことが論文などで形となると苦勞も癒されます。京大時代に私が行った実験データが「第5版実験化学講座5」で引用されました。執筆者が当時、私が所属していた研究室の教授、梶本興亜先生ということもあって引用してくださったのです

（右段の上部へつづく）

が、自分の実験したものがこのような本に載ることは嬉しく思いました。研究の楽しさを覚えた礎は大阪市立大学で築られました。これからも更なるご発展のあることをお祈りします。（応化・平成6年卒・11年後博修了・徳島大学工学部）

## 近況報告

平戸 伸治



卒業してから、塗料メーカーに就職し、7年以上の月日が経ちました。この7年の間に、私自身も結婚し、昨年には一女に恵まれ、今は子育てに忙しい日々を過ごしています。

現在の仕事は、主に塗料の開発、改良に携わっています。皆さんもガソリンの高騰等で実感されていると思いますが、近年、原油の価格が高くなってきています。塗料業界におきましても原油高に伴う原材料単価の上昇が問題となっています。原油高の原因は、インフラ設備の不足、産出国の政情不安、新興市場国の需要増などが上げられますが、OPEC（石油輸出国機構）は供給増に前向きな姿勢を示さず、原油高解消の目途は立っていません。この原油高に伴い、仕事においてもコストダウンが強く求められるようになりました。「より良いものをより安く」言うことは簡単ですが実行することは非常に難しく、日々この問題に向かい仕事をしています。今はこのような原油高、コストダウンなど考えもしなかった学生時代が非常に懐かしく思えます。たまに同窓生と会うときは学生時代の思い出話で盛り上がるのですが、たまには原油高、コストダウンといった話で語り合いたいですね。同窓生の皆さん、また会える日を楽しみにしています。

（応化・平成8年卒・10年前博修了・関西ペイント(株)）



同窓懇親パーティー2005にて

### 学科の名称が変更されました！

- ① 「土木工学科」 → 「都市基盤工学科」
- ② 「生物応用化学科」 → 「バイオ工学科」

## 建築学科の近況

坂 壽二



卒業生の皆様には、お元気にご活躍のことと存じます。今年度、学科主任を務めさせていただいています。

学科の教員については、4月には建築デザイン分野の横山俊祐先生が教授に、建築計画分野の徳尾野徹先生が講師に昇任され、10月には建築デザイン分野の中谷礼仁先生と建築防災分野の谷口徹郎先生が助教授に昇任されました。また、昨年度学科主任の西岡利晃教授が今年度末には定年退職されます。

学生の進路については、就職希望者は建築業界の採用に明るい兆しが見え、ほぼ内定しています。業種は、主に建築会社、住宅会社で、ほかに、研究所、不動産関係、銀行などで、時代を反映し公務員希望者が減少し、厳しい状況です。なお、従来の学科推薦より、公募による受験が増えており、ある意味主任としての労力が少なくなっていますが、益々事前の進路指導が重要と実感しています。また去年あたりから、学生が建築作品のコンペで入賞するようになり、設計事務所や建設会社の設計部に内定するようになり、学科の活力が感じられることは喜ばしいことであります。学部から前期博士課程への進学は、他大学院へ進む人や他大学から入学される人が増える傾向があります。今後、後期博士課程への進学に努力することが課題となっています。

最後に、建築学科も今年11月にJABEEの審査を受けることになっております。卒業生の皆様にもいろいろとご支援いただくこととなりますが、宜しくお願い申し上げます。

(工学研究科都市系専攻教授兼建築学科主任教授)

## 近況報告

吉村 晃治



市大工学部を卒業してから約17年。現在は建設コンサルタントに勤務し、その中で建築設計をやっています。卒業以来、何とか職を変えずここまで続けております。

正直なところ大学とは結構疎遠で、よく同窓会の案内も送って頂くのですが、殆ど参加できていないのが現状です。実は現在の住まいが大学から徒歩10分圏内で、どうやら、この身近さが余計に大学を遠くさせているようです。今回のこの寄稿についても、大学・会社の共通の後輩（現在は建築学科に勤務されています）から突然頼まれ、断るのも悪い気がして（怒られそうな感じもしたので）書くことにした次第です。

仕事の方はジャンルを問わずいろんな建物の設計に取り組んでいます。ただ、最近は何故か遠方地の施設という一つの傾向が出てきています。特に「過疎地の学校」と「自然学習の拠点施設」の設計機会が続き、秘境の地に伺う機会が多くなりました。また、今年の夏には富士山頂に建設していた公衆トイレが竣工し、2か年に亘る工事監理を終えました。この

[右段の上部へつづく]

施設、富士宮ルート頂上部に立地し、日本で最も高い建物（場所が）になっています。厳密にはプロジェクトXの富士山測候所に次いで2番目に高い地点です。トイレの処理方式はバイオ、燃焼の併用で、また厳しい自然条件に耐えうる木造建築物が要求されました。

この業務、面白いことに意匠・構造・設備の各担当が市大建築学科の卒業生であり、また、私が都合により最終検査で登頂できなく代行を御願ひした私の上司も同じく市大建築学科の卒業生でありました。少し不思議な偶然を感じます。

とにもかくにも、今回のこの作文で思いをめぐらせているうちに市大建築学科の同窓生と飲み交わしたい気分になってきました。（建築・昭和63年卒・㈱ニュージェック）

## 近況報告

春木 宏美



今年の7月にオランダの大学院ベルラーヘ・インスティテュート (Berlage Institute Rotterdam, Postgraduate Laboratory of Architecture) を卒業し、帰国しました。今回は、私の留学した学校について、お話ししたいと思います。

その学校は、調査・分析からの新しい方法論を重視している学長のアレハンドロ・ザエラ・ポロ (FOA) を筆頭に、様々な現役建築家がチューターとしてスタジオで教鞭を執っており、また、そこで学ぶ生徒も、建築だけでなく、グラフィックや彫刻など様々な分野でのバックグラウンドをもつ者が世界中から集まっており、私にとって非常に刺激的な場でした。そこでのレクチャーは、彼らとのグループワークを通じて実際のクライアントに対して提案を行うというもので、理論で組み立てた事柄に、如何に現実性を持たすかという点で色々大変でしたが、有意義な時間を過ごせたと思います。文化や風習といったバックボーンが生徒各々で異なるため、今までの常識が通用しない事が多々あり、その度に生徒間で意見交換を行い、時には口論となりながらも良い刺激をもらいました。

特に卒業制作においては、自分達でクライアント、チューターを選出し、それぞれのスタジオを立ち上げ、自分達でスタジオを運営した経験から、本当に多くを学びました。多種多様な人々と討論を重ね、各々が自らの役割を担い、ワークショップを開催し、最終的に成果品として本を出版する。皆で一つのことを創り出すプロセスと共に、私自身成長できたのではと思います。

今後も、この留学を通じて学んだことを活かし、様々な方々との出会いから良い刺激を受け、建築を探求し続けたいと思っています。（建築・平成9年卒）





## 都市基盤工学科の近況

東田 淳



卒業生各位には益々ご活躍のことと存じます。本学科は、本年度から学科名を都市基盤工学科に変更し、自立したCivil Engineerを育てるという教育目標を掲げて新たなスタートをきりました。卒業生の皆様の暖かいご支援をお願いします。

以下、新生「都市基盤工学科」の近況を紹介します。

本年3月には高田直俊先生（地盤工学）が定年退職され、4月に私、東田が後任の教授に昇任し、学科主任を務めています。同じく4月に松村政秀先生（橋梁工学）が講師に昇任されました。また山口隆司先生（橋梁工学）が3月末から1年間、英国サリー大学に留学中です。角野昇八先生（材料・河海工学）は昨年度から副学長として活躍中です。

5月には全教員の努力がみのり、JABEE（日本技術者教育認定機構）から2年間（2004、2005年度）の適合認定を頂きました。

6月には4年前に退職された名誉教授の西村 昂先生がお亡くなりになり、正四位瑞寶中綬章の叙勲を受けられました。

9月には現役教授の小林治俊先生（構造工学）が逝去され、残ったメンバーで研究教育体制を固めつつ、後任教授の公募を開始したところです。

学生の進路については、大阪市の採用凍結の影響で公務員が激減し、学部生のまさに2/3に相当する18名が大学院に進学の予定です。民間への就職は学部、大学院併せて12名が内定していますが、土木業種は5名のみという状況です。

（工学研究科都市系専攻教授兼都市基盤工学科主任教授）

## 10年“ひと”区切り

堺 広範



“もの”づくりに携わって、早10年。現在、私は、大阪北摂郊外のニュータウン建設に携わっています。「“まち”づくり」は“ひと”と“ひと”のつながりによる「コミュニティづくり」であると考え、日々仕事をしています。最近は一概にまちづくりといってもハード整備

だけではないと考えます。

個人社会が定着し、ご近所付き合いやあいさつまで薄れた中で、もう一度古き良き日本の姿を見直すべきではないでしょうか。特に新設の住宅地では、旧集落にある社会や文化と、他方から移り住む住人の考え方が対立し、衝突する例も稀にあります。まちづくりの判断基準の一つとして、学校や公園、道端などで新しいコミュニティが作られているかどうかがあると思います。公共の場で人々が共感し、分かち合うことで新しい“まち”が生まれ、地域がより活性化していくものと考えます。

卒業して今年で10年。同期生も各方面で、苦勞し、助け合い、成果を残していることでしょう。Engineerとしてそれぞれ

（右段の下部へつづく）

## 小林治俊教授を偲んで

角掛 久雄



小林治俊教授（構造工学分野）が平成17年9月5日(月)に58歳の若さでお亡くなりになりました。先生は昭和40年に本学に入学されてから、修士課程終了後に大学教員になられており、約40年間常に大阪市立大学に籍をおき、教育と研究に勤しんでおられました。特に複雑多様化する

土木構造物を取り扱うには、骨組構造の力学だけでは不十分であり、連続弾性体としてのシャイベ、平板およびシェル等の力学の知識を踏まえて取り扱う必要性を説き、連続弾性体に対して厳密解に属する解析的手法と近似解である数値解析的手法を用いて静的および動的な力学特性の解明に関しての研究を重点的に実施されていました。

そのような研究活動の傍ら、先生はお酒と本と山を愛し、特に山に関しては学生時代には山岳部に所属し、卒業後も活動を行い昭和53年には関西学生山岳連盟OB会のカラコルム遠征隊長としてゲントⅡ峰（7,343m）の初登頂に成功するという偉業も成し遂げられていました。また、本においては部類の読書好きを反映してか、勉強および研究する環境として本を身近にたくさん用意しておくことを望まれていました。そのため、古い雑誌等も学術情報センターへの移管をせず、研究室に保管しているため管理に困る程になっています。さらに先生は古本屋に立ち寄ることを好み、ご自宅のみならず、先生の研究室にも私物の本が増えていく状態でした。当然山関係の本が多かったです。

また、先生は学生（だけではありませんが）に厳しく、特にマナー等にはうるさく時には激しく叱責しました。しかし、学生とコミュニケーションをとることも好み、よく研究室で酒宴を開いていましたが、今年の4月が最後となりました。残念でしょうがありません。

私は5年半研究室を共にさせて戴きましたが、あまり、お役に立てないばかりか、最後の方は先生の状態にも気づかず、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。ご冥福をお祈りし、簡単ながら先生を偲んでのご紹介とさせていただきます。

（都市基盤工学科構造工学研究室）



同窓懇親パーティー2001での小林先生（金田先輩の後）  
故植木理事及び金田先輩とその同期生と共に

これらの情報を交換し、共有することで、次の新たなステージでの“もの”づくりができると考えます。年末に、大阪で、同窓会をするぞ！。（土木・平成8年卒・大阪府庁）

## 応用物理学科の近況

熊谷 寛



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

応用物理学科は、理工学部時代の学科創設（昭和32年4月）から数えて、本年度で48周年を迎えました。学科の発展に大いに貢献頂いた卒業生の皆様に深く感謝申し上げます。

今年度の応用物理学科の新入生は29名で、前期博士課程には22名入学しています。新入生の担任は昨年10月に着任されたフレッシュな杉田歩講師が担当されています。前期博士課程修了予定者は17名で、その内後期博士課程進学予定者が1名、企業等への就職内定者が16名です。溝口幸司助教授のきめ細かい就職指導により、内定企業はいずれも産業界をリードしているエレクトロニクス、材料、情報通信分野等です。

応用物理学科の学部卒業予定者は27名で、その内5名が就職予定者で、大学院への進学予定者は22名です。全国の大学院から学部学生への受験勧誘がある中、大学院進学予定者の100%が引き続き応用物理学講座での大学院生活を希望しています。また社会人特別選抜（後期博士課程）電子情報系応用物理学講座に企業研究者1名が10月入学致しました。

昨年度米国フロリダ州立大学で1年間の在外研究を行っていた光物性工学分野の金大貴講師が4月から戻られ、10月には電子物理工学分野の菜島茂喜先生が講師に昇進され、学科として最大限に力を発揮できる状況になっております。

平成18年度には大阪市立大学は公立大学法人に移行し、平成19年度には「大学全入時代」の到来があると言われております。大学は未曾有の競争時代に入り、今までより鮮明に大学、研究科、学部、学科の特徴を打ち出していくことが求められています。このような背景の中で、応用物理学科では、社会で要求される高水準の技術者養成を目指し、学科JABEE委員の寺井章助教授の奮闘により、11月に応用物理学科が国際的に通用する技術者の養成において社会の要求を満たしていることの、日本技術者教育機構（JABEE）による認定審査を受けることとなりました。

学科創設当時18人であった教員数は現在12名にまで削減され、英知を出し合って学科を構成しております。さらに教育研究費の削減等、大学を取り巻く環境が一段と厳しさを増す折、応用物理学科の良き伝統を継承していくためにも、引き続き卒業生の皆様の強力なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（工学研究科電子情報系教授兼応用物理学科主任教授）

### 「応用物理学科ホームカミングデー」開催！

11月3日の第4回ホームカミングデー参加行事として、応用物理学科卒業生の実験室見学会・教員との懇談会が初めて催され、今まで面識の無かった卒業生と現教員との交流が促進されました。

## 10年振りのクラス同窓会

田中 敏昭



昨年、人見先生から同窓会だよりのこの欄への寄稿を依頼されましたが、同窓会をやってからと1年待っていただき、この7月、10年振りに応物40年卒のクラス同窓会を行いました。前回幹事と同窓会事務局の情報がしっかりしていましたので、卒業生全員（19名）とコンタクトがとれ、全員が健在であったことはまずご同慶の至りです。

当日出席者はゲストにお迎えした人見先生、藤井先生を交えて14人、場所は同窓生の片山氏の紹介による新大阪の私学会館。ここは遠方からの参加者には足の便もよく、しかも費用も格安なので、年金生活であることが予測される我々には有難い会場でした。



卒業以来という人もいましたので、顔と名前が一致するのに多少の時間を要しましたが、そこは多感な青春の4年間机を並べた仲、直ぐに昔の雰囲気を取り戻し、あっという間に3時間が過ぎていました。大学に籍を置いている3名以外、大部分が定年を迎えており、会社に籍がある人も顧問とか業界の役員とかで事実上現役は引退、大半の人は悠々自適の優雅な生活を満喫しているようでしたが、結構長そうなこれからの終盤の人生、同窓会という繋がりを大切にし、もっと頻りに集まろうと意見の一致をみて散会となりました。

（応物・昭和40年卒）

## 卒業以来31年余

田中 恒雄



同窓生、とりわけ応物同期生の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。昭和49年に卒業以来早31年余りが過ぎました。一度同期会を開こうではありませんか。在学中は自宅が同じ西宮と言うご縁もあり大倉熙先生に大変お世話になりました。「研究者は優れたストーリー・テラーでなくてはならない」と仮説と検証の繰り返しによる研究の進め方を教えていただきました。先生は惜しくも98年にご他界されましたが奥様やお嬢様とは今でも親しくさせていただいております。

私は松下電器に就職しGaAsなどの材料研究を5年、つくば科学博に出展した超指向性スピーカなど音響研究を22年、現在は管理部門に異動し研究開発の効率化（経費削減）に取

〔P11左上へつづく〕

## 応用物理学科

り組んでいます。同じ松下では栗山君が半導体社で環境安全の推進を担当、中川君は車載機器の開発を担当しています。また土橋君は日本IBMを退職後アルバイト生活、吉田君はシャープで知財訴訟などを担当、小林君もシャープで液晶TVの開発に忙しくしているとのこと。佐藤君はグリムシステムというパソコンを使った教育システムの全国展開をしているそうです。最後になりましたが諸先生・同窓諸兄の益々のご健勝をお祈りいたします。



(応物・昭和49年卒・松下電器産業㈱)

### 近況報告

長野 哲也



卒業して早くも19年が経ちます。社会人になってからは一貫して回析格子の開発・製造に携わり、近年は、世界トップレベルの品質を海外市場へ提供し、世界のお客様に満足いただくべく、新製品開発と生産技術の向上に取り組んでいます。

[右段上部へつづく]

プライベートでは、キャンプやスキーなど、家族で過ごす時間を大切にして、充実した毎日を過ごしています。子ども達がついてきてくれるまで続けようと思います。

同期生が集まる機会といえば、当初は結婚式ぐらいでしたが、卒業後10年以上経ったあるときに、田中作白君が計画してくれたのがクラス会の始まりでした。昨年のクラス会では、初めて家族参加歓迎の企画があり、私たちも家族で参加しました。2年に1回程度開催していますが、連絡がつかない仲間も多く、クラス会とはいえ同期生の半分も集まっていません。この記事を読まれた方、連絡ください。

最近では母校を訪れる機会がありませんが、WEBを拝見すると、見違えるほど立派なキャンパスに変貌しており、時代の流れを感じます。将来にわたっても大阪市民と卒業生の誇りとして、大阪市立大学がますます発展することを願って止みません。



(応物・昭和62年卒・㈱島津製作所)

## 情報工学科

### 情報工学科の近況

岡 育生



皆様、いかがお過ごしでしょうか。情報工学科では、本年8月のオープンキャンパスでロボカップ出場チームのデモを行いました。7月に開催されたロボカップ大阪に犬型ロボットAIBOを用いる4足リーグに参加したチームで大変好評でした。残念ながら入賞は逃していますが、

また、来年の活躍が楽しみです。

9月の電子情報通信学会ソサイエティ大会におきましては、本学科、辻岡哲夫先生が基礎・境界ソサイエティ特別功労賞を、阿多信吾先生が通信ソサイエティ活動功労賞を受賞されました。今後もアクティブな研究・学会活動が期待されています。

さて、情報工学科の講義科目「論理設計」の作品コンテストも今年で4回目となりました。昨年度より外部財団の援助により表彰を行っています。本年1月のコンテストでは2年生の石本君がオセロゲーム「Othello74」で井上賞を受賞し、賞状と副賞を手に入れました。ブレッドボード10枚にわたる大作でした。

[右段へつづく]

最後になりましたが、スタッフの移動がありました。情報通信工学研究室の村田正先生が3月に定年を迎えられ龍谷大学に転任されました。かわって、10月には大阪大学より原晋介先生が教授として着任されました。これで、講師4名、助教授3名、教授5名のフルメンバーとなっています。

(工学研究科電子情報系専攻教授兼情報工学科主任教授)

### 近況報告

木下 慎吾



今年の夏は酷暑であったにもかかわらず、急に朝晩が寒くなり季節の移り変わりの早さに驚かされています。

皆様いかがお過ごしでしょうか。大阪を離れてしまっているため、なかなか同期の方とも連絡が取りづらい環境になり、折角の大学・大学院生活で築いた人との繋がりが薄くなっているように感じております。これを期に、連絡を密にとりたいと思います。同期のみなさまいかがでしょうか？

私の方は、入社後から通っていた事業場が今年度始めに移  
[次ページ左段上部へつづく]

## 情報工学科

転があり、寂しさにつつまれながらも新しい環境にやっと慣れ始めたところです。仕事については、海外向け装置の監視ソフトを、学生時代に培った知識を生かしながら開発しております。日に日に新しい技術が現れるため、その中で新規性をどれだけ出せるかを四苦八苦しながら考えております。とはいうものの、日々の雑務に追われることが多く、優先順位  
〔右段上部へつづく〕

をつけて如何に効率よくするかの大事さを痛感しております。まだまだ社会人として未熟であり、教えられることや手助けしていただくことも多々あり、人と人との繋がり・チームワークの重要性を感じています。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍と発展をお祈りいたします。

(情報・平成13年卒・15年前博修了・日本電気㈱)

## バイオ工学科

### バイオ工学科の近況

山内 清



以前の生物応用化学科の名称は平成17年度よりバイオ工学科となりました。生体機能化学研究室の玉垣誠三教授が定年退官されて、後任には生体材料工学研究室の田辺利住助教授が教授として昇任し就任されました。また、生物工業化学の北村講師が助教授に昇任されました。大

阪市の職員・教員削減計画のなかで欠員の補充は難しく、全て内部での人事移動です。教員は年齢構成が高齢化しますが、まだ若い生物情報工学の立花太朗助教授がカルフォルニア大学サンジェゴ校に本年度2月から一年間、海外出張されてます。

学生諸氏の就職活動につきましては各人がインターネットで希望先に登録してから会社訪問や面接等を受けることが最近の方法です。教員が案内・世話する機会がほとんどなくなって楽ではありますが、何社にも挑戦して非常にきびしい状況に遇って希望・夢のいくらかを割り引かざるを得ない学生氏を見ることはつらいです。それぞれがあたえられた場面で力を発揮していただきたいと思う次第ですが、このような中、教員も教育プログラムの改善に一層努めておまして有機化学・物理化学・生化学はじめ各科目の授業内容を見直し深い専門知識を身につけさせようと奮闘しているところです。

卒業された皆様には当学科に一層のご支援をお願い申し上げます。卒業生の皆様に再会するのは教員にとりまして大変うれしいことですから近くに來られたときには是非、大学にお立ち寄りくださいますよう。

(工学研究科化学生物系専攻教授兼バイオ工学科主任教授)

### 近況報告

沼田 修子



皆様こんにちは。学部、院生活においては先生方や先輩方には大変お世話になり、また同期には精神的に支えてもらい、ここに改めてお礼申し上げます。大学の仲間とはたまに会いますが、その際はとても懐かしく、時がたつのを忘れるほどに話がつきません。

さて、現在私は、化学メーカーの研究所に勤めています。入社後の導入研修を終え、現部署に配属されてから、数件の研究テーマを担当しました。携わったテーマの中には事業化されず、収束したテーマもありました。その際は、「この段階で見極められるなんて。まだやれるのではないか」という思いでしたが、今ではそのときの経験を生かし、「事業化となればなにが問題になるか」まで考え研究を進めるようにしています。現テーマは、大学の専攻とは異なる無機材料に関するもので、毎日新しい発見があり、意欲的に取り組んでいます。

今やメーカーは大学や公的研究機関との連携・共同研究を活発に行うことによって、研究開発から事業化までのスピードを格段に向上させています。今はまだこのスピードについていくのがやっとなのですが、将来的には率先して事業化テーマを創出できるよう知識・経験を深めていきたいと思えます。

(生応化・平成14年卒、16年前博修了・東レ㈱)

## 知的材料工学科

### 知的材料工学科の近況

橋本 敏



学科創立からはや7年目を迎えました。今年3月には第三期生18名が卒業しました。うち6名が企業へ就職、11名が本学大学院に進学、1名が研究生です。そして、第一期生として入学し大学院機械物理系専攻へ進んだ十数名が、学部と修士課程2年、計6年の学業を修め、希望を

胸に膨らませ社会へ飛び立ったことは、感慨深いものがあります。  
〔右段へつづく〕

昨秋、転出された量子物性工学分野の金崎順一助教授と近藤孝文助手の後任として、4月1日より新進気鋭のお二人の先生を迎えることができました。中村篤智講師と岸田逸平助手です。中村講師は東京大学と(独)物質・材料研究機構ナノマテリアル研究所にて、高分解能透過型電子顕微鏡を駆使したセラミックス結晶の転位構造解析や、欠陥配列制御による新しい機能の発現を中心に研究されてきました。岸田助手は京都大学にて並列コンピュータ使って燃料電池におけるイオン拡散機構の理論的研究を行い、今年3月博士の学位を取得されたばかりです。

4月には28名の新生を迎えることができました。当学科  
〔次ページ左段上部へつづく〕

## 知的材料工学科

は定員22名であったのが、本年度から工学部10学科の定員を一律28名に改めたことによります。

11月中旬には日本技術者教育認定機構（JABEE）の現地審査を受けることになり、現在教員一同鋭意準備中です。

最後になりましたが卒業生の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。

（工学研究科機械物理系専攻長・知的材料工学科主任教授）

### 近況報告

谷口 友厚



平成17年3月に知的材料工学科卒業し、同4月から機械物理系専攻材料機能工学研究室に所属し、日々研究に励んでおります。

先日広島大学にて行われた、日本金属学会2005年度秋季大会に参加して参りました。この時期にこのような大きなイベントがあることは、自分にとってひとつの目標となり、より熱心に日々の研究に打ち込むことができました。そして何より、金属という分野を熟知しておられる大勢の方々の前で、

〔右段上部へつづく〕

自らの研究内容を発表するということが貴重な経験となると共に、自らの研究を改めて考える良い機会にもなりました。また他大学、他研究機関の方々の、次世代を担うであろう様々な研究に関する講演を聴くことができ、非常に有意義な時間でありました。

学業以外におきましても、私が所属している研究室での生活はとても充実しており、日頃の飲み会に加え、ソフトボール大会、バーベキュー、冬には雪山にスキー、スノーボードなどといった行事を通じて、学生間の一体感をより強めることができています。

このような恵まれた環境を最大限に生かし、残りの学生生活一日一日を大切に、より優れた研究成果を残すことを目標に全力を尽くしたいと思います。



（知材・平成17年卒・工学研究科機械物理系専攻前博1回生）

## 環境都市工学科

### 環境都市工学科の近況

赤崎 弘平



2004年度4回生のうち24名が'05年3月に卒業しました。うち16名が本学大学院都市系専攻へ進学、1名が大阪府立大学大学院生命環境科学研究科へ入学、5名が民間企業（環境系コンサル：2名、ハウスメーカー・食品メーカー・衣料メーカー：各1名）へ、2名が公務（兵庫労務局、京都市）に就きました。三度目となる「優秀学生賞」は神保幸代さんが受賞しましたが、この度は加えて中條壯大君に「最優秀学生賞」を、劉暢さん（中国より留学）に「優秀留学生賞」を贈りました。

2005年度に入り本学科第7期入学生29名を迎えましたが、4月より地域環境計画分野：鍋島美奈子先生が講師に昇任されました。その後、建築学科都市計画研究室時代から本学科の創設、そして今日に至るまで学科発展に大きく貢献された中村仁先生が5月末日に退職されました。環境都市計画分野ではその後10月に、豊橋技術科学大学エコロジー工学系COE研究員であった姥浦道生〔うばうらみちお〕氏（31歳）を助手として迎え、新たな歩みを始めました。各分野の研究も大きく進展していますが、最近ではその交流や連携をより図ろうとの試みも始めています。又学科創設7年目に入ったこの期に当たり、改めて教育課程の枠組みや内容を見直して改善すべく検討を加えており、教育・研究は勿論社会貢献におい

〔右段へつづく〕

でも大きな成果を挙げたいと努力を重ねています。卒業生の皆様のご意見、ご要望も大いにお寄せください。

（工学研究科教授兼環境都市工学科主任教授）

### 近況報告

辻本 暁子



私は現在、大阪市立大学大学院に進学し、日々、勉学に研究に励んでおります。大学院の授業は、学部の頃と違い、先生方に教えてもらうというよりも、自ら調べ理解し、そして他の人達にわかりやすいように発表するといった、自分達で授業を作っていく形がほとんどです。初めはこの違いに戸惑いも感じましたが、自主的に動くことによって理解もさらに深まり、また、先生や同期から見落としている部分をお互いに指摘しあうことによって、新たな考え方も発見することができました。院生になり、さらに自分の幅が広がり、「環境都市」づくりの実現に一歩ずつ近づいているのではないかと実感しております。

さて、私達3期生の近況では、今年の夏に、卒業してから初めて同窓会を行いました。残念ながら3期生全員が集まることはできませんでしたが、社会人になった数人も来てくれ、久しぶりに元気な顔を見せてくれました。進んだ道はみんな様々ですが、貴重な4年間を共に過ごした仲間として、これからも集まり、笑い、色々なことを語り合っていければいいなと思います。

（環境・平成17年卒・工学研究科都市系専攻前博1回生）

事務局年報 (2004・12～2005・11)

2004年(平成16年)

12月：2回目の会費督促状発送(2日)。会報第20号発送(20日)。

2005年(平成17年)

1月：第16回評議員会通知を郵送、市大広報第55号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(14日)。新保・志野両監事の会計監査(17日)。第16期最終理事会で第16回評議員会の議案及び、懇親パーティー2005を審議の上決定(26日)。

2月：同窓会連合会に学友会設立準備分担金を貸出(21日)。新阪急ビルスカイルームで第16回評議員会を開催、第16期第2年度(2004年度)の経過・収支決算報告、第17期初年度(2005年度)の理事会役員・事業計画・予算を決定。その後の同窓懇親パーティー2005では恩師を含む約90名の同窓が坂根コマツ(株)社長(機械38年卒)の講話を拝聴した後、一年振りに歓談(25日)。

3月：当会の案内・会則及び学友会入会要請等の2005年度新入生配布書類を学務係に依頼(7日)。大阪城ホールで開催の学友会設立発起人会及び評議員会に、当会推薦の役員・評議員27名が協力(13日)。工学部・工学研究科送別式に貴志会長・中田副会長及び理事有志が出席、さらに博士号授与式に貴志会長が参列(24日)。

4月：学友会の2005年度新入生入会受付に同窓会連絡会(旧同窓会連合会)として協力(4、6日)。市大広報第56号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(28日)。

5月：第17期第1回財務委員会で特別運用基金の外貨運用を検討(27日)。第114回市大ボート祭で祝アドバルーンを掲揚(28、29日)。

6月：第17期第1回行事委員会で「今年のホームカミングデー」での主催行事の可能性、及び第17回評議員会・第6回キャンパス交流会の日時・講演者等を検討(9日)。第17期第1回理事会で当年度の計画事業の進捗状況を検討(14日)。同窓会連絡会で、学友会からの終身会費相当金の分配・貸付金の返却、文化交流センター談話室管理費・連絡会運営費の分担案等を了承(16日)。

7月：第2回財務委員会で特別運用基金の運用指針を検討(26日)。

8月：市大広報第57号を学外理事・評議員及び大学院生評議員に配布(2日)。工学部学術情報交流センター夏季休館(15～18日)。第17期第1回編集委員会で第21号の記載内容、及び個人情報保護に配慮した会員登録の収集等を決定(30日)。

9月：同窓会連絡会の第4回ホームカミングデー実行委員会で、行事内容・案内方法等を検討(1日)。本年の定年恩師に会報第21号への寄稿を依頼(5日)。故小林治俊理事の葬儀に会長・理事有志参列(8日)。第3回財務委員会で運用方針を再検討(15日)。

10月：第2回理事会では、工学研究科後期博士課程進学者修学援助案を来春の評議員会に提案することを決定(4日)。故植木正富理事の葬儀に貴志会長他理事有志が参列(5日)。第4回ホームカミングデー案内はがきを評議員他約750名に発送(11、13日)。工学研究科長・学科主任他に会報21号の原稿を依頼(12～14日)。

11月：银杏祭中に第4回ホームカミングデーに協力(3日)。第4回財務委員会で運用状況を検討(17日)。ホテルニューオータニ大阪で開催の学友会の設立記念式典・講演会・懇親会に協力(23日)。会報第21号校正終了(25日)。

(1)第16期2年度(2004年1月～12月)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,930,000	会議費	199,045
預金利息	846	行事費	197,345
雑収入	66,000	会報	1,793,779
前期繰越	8,694,106	会員名簿	1,207,568
		協賛費	1,602,150
		渉外費	104,380
		通信費	244,104
		事務局費	2,683,659
		次期繰越	7,658,922
合 計	15,690,952	合 計	15,690,952

(ロ)借貸対照表(2004年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	2,543,324	累計剰余金	8,694,106
普通預金	5,873,123	当年剰余金	△1,035,184
定期預金	47,286,103	特別基金	71,686,689
有価証券	23,693,061		
合 計	79,345,611	合 計	79,345,611

(2)第17期初年度(2005年度1月～12月)理事会役員

会 長：貴志 義昭(建41)	山口南海夫(電44)		
副会長：中田 忠(機26)	下田 隆二(機29)	人見 宗男(機31)	
理 事：副松 晃(機26)	東 恒雄(機41)	宮本 万功(機43)	
南齋 征夫(機39)	栗政 幸一(電31)	建部 渉(電35)	
笠上 文男(機50)	行藤 三男(電36)	南 繁行(電45)	
矢野 孟彦(電36)	村治 雅文(電62)	津田 恒次(化29)	
串坂 徹(電55)	福山 泰夫(化32)	山田文一郎(化修40)	
廣岡 孝一(化29)	大嶋 寛(化49)	坂内 幾男(建24)	
三浦 洋三(化42)	都築 周(建29)	多胡 進(建34)	
大東 清四(建25)	赤崎 弘平(建45)	山道 正男(建45)	
坂 壽二(建42)	植木 正富(土24)	井上 保(土26)	
谷口 徹朗(建59)	園田恵一郎(土36)	伊藤 和雄(土38)	
吉村 憬(土32)	小林 治俊(土45)	日野 泰雄(土50)	
湊 勝比古(土41)	繁澤 孝(物32)	川上 一夫(物35)	
大島 昭彦(土55)	増岡 俊夫(物38)	和倉 慎治(物45)	
田守 芳勝(物38)	宇佐美照夫(物46)		
監 事：新保 市弘(電35)	志野 太一(物40)		

(3)第17期初年度(2005年1月～12月)事業計画

- ①会報第21号の12月上旬発行・配布。
- ②工学部・全市大行事等への協力。
- ③会員相互の横断的交流・親睦の促進。
- ④第17回評議員会の開催と第18回評議員会の企画。
- ⑤特別基金の有効利用法の検討

(4)第17期初年度(2005年1月～12月)経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,150,000	会議費	200,000
預金利息	1,000	行事費	300,000
雑収入	12,000	会報	1,800,000
前期繰越	7,658,922	会員名簿	150,000
		協賛費	1,000,000
		渉外費	100,000
		通信費	250,000
		事務局費	2,960,000
		次期繰越	7,061,922
合 計	13,821,922	合 計	13,821,922

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2005.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
野邑 奉弘 2663	南 繁行 2760	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	角掛 久雄 2723	中山 正昭 2739
西村 伸也 2664	武智 誠次 2677	澤井圭二郎 2694	谷口 徹郎 2707	北田 俊行 2734	溝口 幸司 2174
伊奥田浩志 2963	曾田 田人 2678	五百井正樹 2977	木内 龍彦 2706	山口 隆司 2765	金 大貴 3087
東 恒雄 2666	高橋 秀也 2679	有吉 欽吾 2791	坂 壽二 2708	松村 政秀 2735	中山 弘 3088
加藤 健司 2665	重田 和夫 2761	畠中 康夫 2979	谷口与史也 2709	東田 淳 2725	福田 常男 2738
脇本 辰郎 2965	青笹 正夫 2680	南 達哉 2980	那谷晴一郎 3076	大島 昭彦 2996	細田 誠 2742
川合 忠雄 2667	草開 稔 2681	三浦 洋三 2798	西岡 利晃 2992	日野 泰雄 2730	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	田中 健司 2975	圓藤紀代司 2697	梅宮 典子 2710	内田 敬 3099	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	向井 孝彰 2792	米澤 義朗 2770	大倉 良司 2711	吉田 長裕 2731	小林 中 3030
脇坂 知行 2671	宮崎 大介 2877	辻 幸一 3080	杉山 茂一 2176	角野 昇八 3078	中村 勝弘 2768
瀧山 武 2672	辻本 浩章 2685	米谷 紀嗣 2984	藤本 益美 2989	鬼頭 宏明 3050	寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	村治 雅文 2976	松本 章一 2981	徳尾野 徹 2713	麓 隆行 2780	杉田 歩 2904
		小島 誠也 2797	横山 俊祐 2199		
			中谷 礼仁 2714		
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	澤田 吉裕 2660	赤崎 弘平 2717	(応用数学)	学務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	同 2651
鳥生 隆 2684	北村 昌也 3091	高坂 達郎 2182	姥浦 道生 2716	谷村 省吾 2747	学情サセンター 2657
平井 誠 2683	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	中尾 正喜 2993	鈴木 広隆 2712	
中島 重義 3096	東 雅之 3092	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	(機械工作室)	
辰巳 昭治 2688	五十嵐幸一 2699	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719	吉岡 真弥 2967	
上野 敦志 3081	田辺 利住 3094	橋本 敏 2673	矢持 進 2175		
岡 育生 2779	長崎 健 2696	A・ビノグラドフ 3049	重松 孝昌 2732		
阿多 信吾 2191	東 秀紀 2168	兼子 佳久 2179	森 信人 2733		
原 晋介 2795	山内 清 2703	森 雄造 2743	山田 優 2727		
杉山 久佳 2796	立花 亮 2702	中村 篤智 2741	貫上 佳則 2728		
辻岡 哲夫 2192	萩野 健治 2799	岸田 逸平 2741	西 元央 3048		
	立花 太郎 2167				

## 第17回評議員会のお知らせ

前略 評議員各位には当会のために、色々ご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、第17回評議員会(平成18年評議員会)を、下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席下さいませようお願い致します。

記

日 時：2006年(平成18年)2月18日(土)  
午後2時00分～2時50分

会 場：大阪市立大学学術情報総合センター  
文化交流室

なお、万一ご欠席の場合は、後日お送り致します委任状を必ずご返送下さい。

## 編集後記

2005年は、国内でこそ甚大な自然災害を免れたものの、アメリカやパキスタン等では想像を超えた深刻な被害が発生し、自然災害の規模が年々増大しているように感じますが、如何でしょうか。

さて、ご存知の通り、本年4月より個人情報保護法が実施されました。当会の会員数も1万名超になっており、法令を遵守する必要があります。そのための新たな対応策の構築に努めていますが、会員各位におかれましても、会員情報の保護にご協力下さるようお願い致します。

本号の表紙絵は、中田副会長にご推薦いただいた榎井宏明氏(建築・昭和26年卒)にご投稿頂きました。

本年3月ご定年恩師からは、南斎征夫(機械)、松下賢二(電気)、玉垣誠三(バイオ)の諸先生にご寄稿頂きましたので、是非ご一読下さい。

来年の「工学部同窓会の集い—第6回キャンパス交流会—」の案内を裏表紙に掲載しています。杉本キャンパスも美しく整備されましたので、見学・散策やミニクラス会を兼ねて、是非ご参加下さい。

では、良いお年をお迎え下さい。(N. Y. 生)

## 編集委員

○山口南海夫(電気・昭和44年卒) 南斎 征夫(機械・昭和39年卒)  
△大嶋 寛(応化・昭和49年卒) 村治 雅文(電気・昭和62年卒)  
谷口 徹朗(建築・昭和59年卒) 大島 昭彦(土木・昭和55年卒)  
増岡 俊夫(応物・昭和38年卒) 人見 宗男(機械・昭和31年卒)  
(但し、○：委員長、△：副委員長)

# “工学部同窓会の集い” —第6回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”を下記の通り開催いたします。

講演会では、工学研究科都市系専攻教授の坂壽二先生(建築・昭和42年卒)と、故藤澤征夫元当会副会長ご令嬢の藤澤久美女史(生活科学部・平成元年卒)のお二人に、下記のご講演をお願いしました。

藤澤様は、国内外の投資運用会社勤務後に日本初の投資評価会社を起業され、その後は、シンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画されると共に、NHK教育テレビ「21世紀ビジネス塾」のキャスター、その他のお仕事を通して「より多くの人々が投資や起業を身近に感じる社会創り」に尽力されています。

また、懇親会には、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定ですので、市大の同期生や、職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。特に、ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねての参加も大歓迎です。

## 記

★日 時：2006年2月18日(土曜日) 午後3時00分～午後6時30分

★講演会：時間＝午後3時00分～午後4時50分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター(1階)文化交流室

1) “体育館等の空間構造物の力学特性と地震による被害例”

大阪市立大学工学研究科都市系専攻教授 兼建築学科教授 坂 壽二 先生

2) “豊かさを生み出すシニアになるために”

シンクタンク・ソフィアバンク副代表、社会企業家フォーラム副代表

兼法政大学ビジネススクール客員教授 藤澤久美 女史

★懇親会：時間＝午後5時00分～午後6時30分

会場＝大阪市立大学第2学生ホール

会費＝3000円(当日、会場にて徴収)

### 【申込方法】

1) 連絡事項：①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、  
④ご住所(連絡先)、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠

2) 方 法：ハガキ、FAXまたは、e-mail

3) 期 日：2006年2月13日(月曜日)

### 【申 込 先】

大阪市立大学工学部同窓会事務局

〒558-8585 住吉区杉本3-3-138

FAX(06)6605-2769、 e-mail : dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学学友会の設立記念募金に  
ご協力をお願い申し上げます！